

# 群弓連だより

122号

令和5年3月

群馬県弓道連盟

発行人 飯塚勝亮

## 優秀指導者育成事業を受講して

伊勢崎支部 大島 昭

優秀指導者育成事業（中央指導者招聘研修会）が令和4年11月26・27日にALSOLK ぐんま武道館弓道場にて3年ぶりに実施されました。

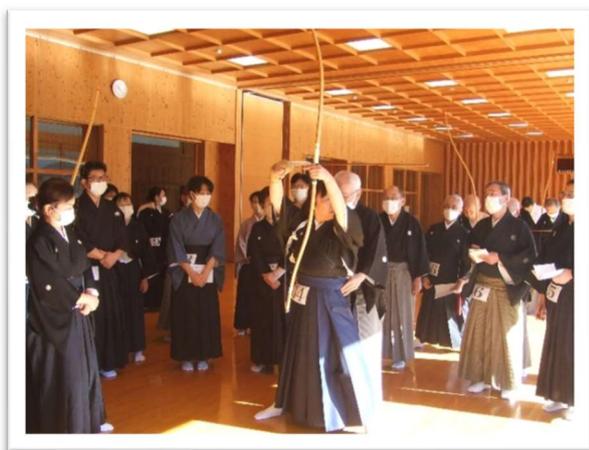
石井勝之先生範士八段（千葉県）が講師を務められるということもあり、募集定員25人（称号者）のところ、定員を大きく上回る36人の参加者が集まり、寒さを感じる季節でしたが石井先生の“熱い”講習会となりました。

石井先生は全日本弓道選手権大会で優勝するなど数々の素晴らしい実績をお持ちです。中央審査会の審査委員も務められたり、各地で講習会をなさったりと、全国を飛び回る大人気の先生でいらっしゃいます。中央審査を受審する者にとっては、審査委員としての目で直接ご指導いただける貴重な講習会でもありました。

また、須田定雄先生、鈴木康弘先生にもお越しいただき、受講生にとってはとてもありがたく贅沢な講習会となりました。

初日冒頭の石井先生の挨拶でピリッと空気が張り詰め、この2日間の講習に対する先生の熱意を感じました。

一手行射、持ち的射礼、一つの射礼、矢渡、射技指導、基本動作等を二日間に渡ってご指導をいただきました。厳しい指導の中に時折り冗談を交え、受講生の緊張を解こうとしてくださる心配りも感じました。



受講生の細かな動作一つ一つに対し、丁寧で分かりやすい言葉を頂き、先生の一言一句も聞き逃さぬよう真剣に聞き入り、自分の物にするべくその場で直ぐに“行っているつもり”から“行っている”へ意識的に取り組みました。

また見取稽古の重要性を教えていただき、自分以外の講習生へ先生が指導している際には、どこをどのように指摘し、説明をするのかを学ぶ事も出来ました。

- ・優秀指導者育成事業を受講して 伊勢崎支部 大島昭先生
- ・群馬県弓道連盟 高校部会の活躍 高校部会 高橋将先生
- ・編集後記

これは今後、自分が指導させていただく側にまわった時にとっても参考になりました。

指導内容は射法のみならず、弓道に取り組む姿勢や息合いの大切さ、道具を活かすための身体の使い方など細部に渡ってご指導いただきました。

一例として「豊かな大三を取る」「大きく引く」では、両掌を正面に向け両腕を真っ直ぐ上に伸ばし（打ち起こし）、掌の向きを変えずに「大三」を取る。これは大きく引き分けをするために右肘を持ち上げるように「大三」の取り方を覚える。そして、その状態から斜め下に引き分けるのではなく真横に引き、その後下ろしながら引き分けて「会」に収める。この様な分かりやすい指導でした。

忘れてしまっていた初心者の頃の心を蘇らせ、今の自分の射を見つめ直すとても良い機会となりました。先生の言われた「三通り（一、全くの初心 二、途中での初心 三、ベテランの初心）の“初心忘るべからず”」を胸に刻み今後の自分に言い聞かせて行きたいと思えます。



“称号者”に胡坐をかくこと無く、襟を正して弓道に向かい合い、講習会で教えた頂いた事を心に刻み、自己の向上と後進の指導へと努めて行きたいと思わせて頂いた大変有意義な講習会となりました。

最初から最後まで休憩時間を取る事すら忘れてしまうほど熱心に指導をしていただきましたので、時間が足らなくなってしまい、予定してあった【講和「弓道における肩甲骨の使い方」】が無くなってしまったのは残念でなりません。

またこの様な機会がありましたら、ぜひ受講させていただきたいと思えます。

## 群馬県弓道連盟 高校部会の活躍

群馬県弓道連盟 高橋将

思うように部活動が実施できない、大会が開催されない、という日々が続いていましたが、少しずつ以前の日常が戻りつつあることを実感しています。しかし、この間、大会が開催できないことを理解しつつも、出場できないことに悔しい思いをした生徒を多く見えました。

そんな生徒たちの思いをぶつけるかのように、本年度、群馬県弓道連盟高校部会では多くの大会で結果を残すことができました。

まず、八月に徳島県で開催された全国高等学校弓道大会において、高崎経済大学附属高校が男子団体が優勝しました。本県の団体優勝は平成八年に女子団体が優勝して以来となり、男子団体の優勝は初めての快挙です。



インターハイ男子団体優勝 [高崎経済大学附属高校]



関東選抜女子個人優勝 [前橋育英高校加藤選手]

次

に、九月に東京都で開催された関東高等学校弓道個人選手権選抜大会において、前橋育英高校の加藤選手が女子個人で優勝をしました。



国体少年女子近的2位遠的2位・天皇杯6位・皇后杯3位 [群馬県少年女子]

更に、九月に栃木県開催の国民体育大会において、少年女子が遠的競技二位・近的競技二位・天皇杯六位・皇后杯三位という、大変素晴らしい結果を残しました。

群馬県では、六年後の令和十一年に、昭和五十八年の「あかぎ国体」以来となる本国体が開催される予定になっています。

本年度に活躍した選手はもちろんのこと、今回の活躍に刺激を受けた本県の生徒

たちに、六年後活躍してもらえるよう、卒業後も弓道が続けられる工夫をしていきたいと思います。

また、昨今は、運動部の活動や指導の在り方に注目が集まっています。今後も本県では県弓道連盟と高体連が協力しながら指導者育成に力を注いでいきたいと思います。

## 国スポに向けて

長年慣れ親しんできた「国体」の呼び名は来年より「国スポ」となります。群馬県では令和11年(2029年)に開催予定です。大会の正式名称は「第83回国民スポーツ大会・第28回全国障害者スポーツ大会」、愛称は「湯けむり国スポ・全スポぐんま」とのことです。

群馬県では弓道競技の開催に向けて、今年度より本格的な準備に入ります。数十年に一度の大きな大会をおこなうことは大変ですが、同時に本県弓道発展のチャンスでもあります。ぜひとも成功させねばなりません。そのためには会員の皆様のお知恵とお力が必要です。よろしくお願いいたします。

## 編集後記

ここ最近、県連公式サイトに「弓道を始めたい・再開したい」との問い合わせがとて増えています。3年間におよぶ"巣ごもり"が開け、人々がアクティブに「何かをやりたい」衝動に駆られているのではと感じます。広報部会ではサイトに弓道教室情報等を沢山載せて「弓道やりたい人」を応援していきます。載せた情報がありましたら部会役員までお声がけください。

広報部会：齊藤昌之、高木正博、稲葉愛、長岡麻子